

Rapport

ラポール

Asahikawa Kosei Hospital

診療科特集／遺伝・ゲノム診療科

2025
3

がん治療は
「個別化」の時代へ――

がん相談支援センターの紹介

誰でも無料で相談できます。

電話でも対面でも対応させていただきます。

がんのことで「どうしよう?」と思ったら、まずはご連絡ください。

「がん相談支援センター」がみなさまに寄り添い、力になります。



JA 北海道厚生連 旭川厚生病院
がん相談支援センター

直通電話：0166-38-2201

繋がる



JA 北海道厚生連 旭川厚生病院

旭川厚生病院 検索

〒078-8211 北海道旭川市1条通24丁目111-3 TEL.0166-33-7171 FAX.0166-33-6075

「Rapport (ラポール)」とは、フランス語で「つながり」「架け橋」、心理学用語で「信頼関係」を意味する言葉です。本誌は、旭川市のシンボル「旭橋」のように地域の皆様と当院がつながり、信頼関係を築けるような広報誌を目指します。

取材・編集／東洋株式会社 旭川支店



遺伝・ゲノム診療科



Instagram
アカウント名
asahikawakosei_hospital

遺伝・ゲノム診療科

遺伝子の情報は、あなた自身の体質や病気のリスクを知るための大切な手がかりとなります。

遺伝・ゲノム診療科が 新設されました

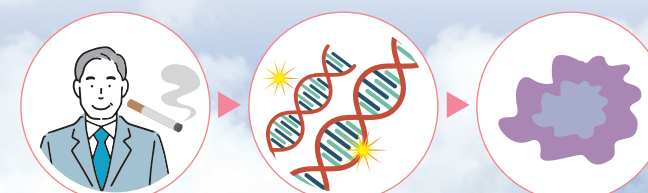
近年、がんをはじめとする様々な病気の診断や治療に、遺伝情報(ゲノム)が広く使われるようになってきました。

このような現状を踏まえ、当院では、遺伝情報を活用した医療を、より多くの患者さんに安心して受けていただけるよう、2024年5月に「遺伝・ゲノム診療科」を新設しました。

《遺伝・ゲノム診療科ではこんなことを行います》

- がんの遺伝子変異を調べて、あなたに最適な治療法を見つける「がんゲノム医療」
- 出生前診断や、お子様から大人まで、幅広い年齢層に対応する遺伝診断
- 遺伝に関する疑問や不安を解消する、患者さんご家族への遺伝カウンセリング
- がんになりやすい体質の方への、適切な検診や経過観察

「がん」が
発生するしくみ



加齢・生活習慣・環境要因など

遺伝子の変化

がん

遺伝子(体の設計図)の傷でがんが発生

Genetic Genomics

がんゲノム医療って どんなもの？

あなたの体質に合った
がん治療

「がんゲノム医療」という言葉を聞いたことがあるですか？これは、がん細胞の遺伝情報(ゲノム)を詳しく調べることで、患者さん一人ひとりに最適な治療法を見つけ出そうとするものです。がんの治療においては、がんゲノム医療を用いてがん組織の遺伝子変異を明らかにし、患者さんの体質や病状に合わせた治療を行います。

従来のがん治療との違いは？

従来のがん治療は、胃がんや肺がんといった「がん

従来の治療

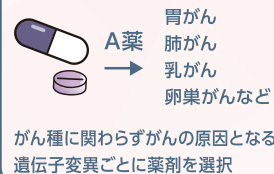
臓器別に異なる治療薬を使用



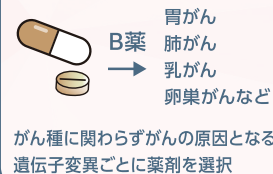
がんゲノム医療による治療

遺伝子変異に対応する治療薬を使用

A遺伝子変異



B遺伝子変異



の種類」に合わせた臓器別の治療が主流でした。しかし、同じ種類のがんでも、遺伝子によって効果のある薬や治療法を選択できるようになってきています。

がんゲノム医療は、あなたの遺伝子の特徴を調べることで、あなたにとって最も効果的な治療を見つけることを目指しています。

あなたの「がん」の治療に役立つ
情報が得られない可能性もあります

薬剤が国内未承認の場合

治験・臨床試験の
参加条件に合わない場合

薬剤を投与する基準に
あてはまらない場合

遺伝子に変化が
見つからない場合

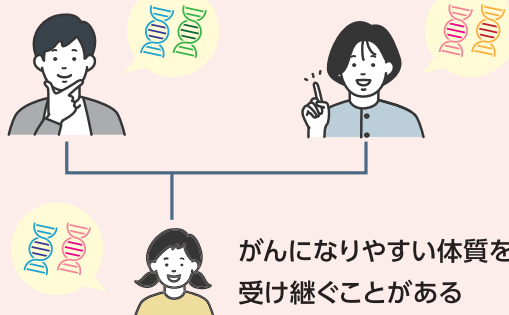
解析がうまくいかない場合

「がん」についてわかっていない
こともあります

生まれながらに持っている遺伝子の違いが
原因で、「がん」になりやすいことがあります

父親の遺伝子

母親の遺伝子



- ・「がん」を必ず発症するとは限らない
- ・対処法がある場合がある

がんゲノム医療は、新しい治療の可能性を
広げる一方で、いくつか知っておくべき点
があります。

がんゲノム医療を 受ける前に



効果的な治療が見つからない可能性もあります
がん遺伝子パネル検査を受けても、すべての方に効果的な治療薬が見つからないこともあります。
検査結果をもとに、適した薬剤が見つかる割合は約1割とされています。

遺伝性腫瘍が判明する可能性があります

検査の結果、生まれつきがんになりやすい体質の可能性「遺伝性腫瘍」が見つかる場合があります。これは、あなただけでなくご家族にも関係する情報です。迷ったり不安を感じたりする場合は、医師に相談してみましよう。遺伝や検査に関する疑問や不安を解消し、治療について一緒に考えることができます。

がんゲノム医療を受けるかどうかは、ご自身の状況や希望、そして医師とよく相談した上で、慎重に判断することが大切です。

がん遺伝子パネル検査 事例紹介

2
事例紹介
Bさん



40代・女性

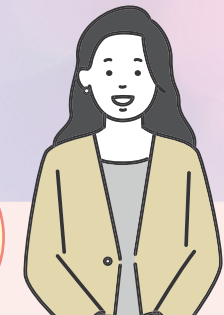
卵巣がん 術後再発

二次化学療法中に腹膜播種確認、
病勢進行の診断。
手術時の検体を用いて、
がん遺伝子パネル検査実施へ

検査結果

(推奨治療あり)
TMB-hの遺伝子変異あり
ペムブロリズマブ(免疫チェックポイント阻害薬)
の適応へ
遺伝性腫瘍の診断あり
遺伝カウンセリング外来へ紹介

1
事例紹介
Aさん



50代・女性

肝内胆管がん
下大静脈浸潤あり
非手術症例

一次化学療法中に
がん遺伝子パネル検査実施へ。
診断時の生検検体では組織量少なく、
血液検体を用いて、
がん遺伝子パネル検査実施へ

検査結果

(推奨治療あり)
EGFR2の遺伝子変異あり
フチバチニブ、ペミガチニブ(分子標的薬)
の適応へ

患者さんと共に挑むがん治療



がんゲノム医療 コーディネーター

—がんゲノム医療の橋渡し—

がんゲノム医療コーディネーターは、患者さんにご家族ががん遺伝子パネル検査の内容をわかりやすく説明し、その結果に基づいて最適な治療法と一緒に考えます。また、生まれつきがんになりやすい体質と分かった場合は、患者さんが安心して治療に臨めるようご家族や遺伝に関する専門家との連携をサポートします。

当院のがんゲノム医療コーディネーターは、がん専門相談員も兼ねています。がん遺伝子パネル検査はがん治療の一過程です。検査をきっかけに患者さんご家族が望む最適な治療や療養と一緒に考え、必要な医療チームへとつなぐことを大切にしています。



がん相談・ゲノム支援科

看護係長 工藤 久華

がん看護専門看護師 山田 琴絵

保健師 高橋 佳枝



臨床検査技術科 技師長

高橋 正樹



臨床検査技師

—専門性と確かな技術で結果に導く—

がん遺伝子パネル検査は、患者さんのがん細胞にある遺伝子の変化を調べる検査です。この検査によって、患者さんに合った治療法を見つけることができます。臨床検査技師は、この検査を行う上で重要である左記のような役割を担っています。

- ①採取された臓器の一部や血液をパネル検査に使えるように準備する。
- ②DNAやRNAという遺伝子の情報を抽出する。
- ③抽出したDNAやRNAを使い、遺伝子の変化を調べ解析する。
- ④検査結果をまとめ、報告書を作成する。

といった作業を行います。これらの作業は、とても専門的な知識と技術が必要で、臨床検査技師は正確な検査結果を出すために、日々努力しています。

また、医師や看護師・事務員など、他の医療スタッフと協力して、患者さんに最適な医療を提供するために、臨床検査技師は欠かせない存在です。

全員で同じ目標に向かい、患者さんとチームが一丸となってがん治療の共有をしていきます。



がん遺伝子パネル 担当医

—検査から結果説明まで、
すべてを当院で完結—

担当医師
消化器科 主任部長 河本 徹

2006 旭川医科大学卒業
2006 遠軽厚生病院
2007 旭川医科大学病院
2008 旭川厚生病院 消化器科
2009 旭川医科大学病院
2012 町立中標津病院／旭川医科大学病院
2013 旭川厚生病院 消化器科医長
2023 // 消化器科主任部長

資格等
・日本内科学会認定内科医
・日本がん治療認定医機構認定医
・日本消化器内視鏡学会専門医
・日本胆道学会認定指導医
・日本痔瘻学会認定指導医

これまでは、がん遺伝子パネル検査が必要な場合、他院へご紹介となっていたため、検査のために主治医の元を離れる患者さんに不安なお気持ちを抱かせておりました。しかしながら、当院は2023年に厚生労働省からがんゲノム医療連携病院の指定を受け、現在は当院で検体準備から出検、さらには検査結果説明まで行うことが可能となりました。がん診療を行うすべての主治医が、がん遺伝子パネル検査の担当医になれることを将来的な目標とし準備を整えつつ、現在は各科のコアとなる経験を積んだ医師を中心にがん遺伝子パネル外来を担当しています。また、結果により遺伝カウンセリングが必要となった場合、旭川医大の臨床遺伝専門医が当院で遺伝カウンセリング外来を行うことができるような体制を整え実施しています。



病理医

—精密医療を支える
重要な専門分野—

病理担当医
病理診断科 主任部長
佐藤 啓介

1993 旭川医科大学大学院卒業
1993 旭川医科大学 講師
2011 旭川医科大学病院 准教授
2013 旭川厚生病院 部長
2014 旭川厚生病院 病理診断科主任部長

資格等
・日本病理学会専門医
・日本病理学会専門医研修指導医
・日本病理学会分子病理専門医
・日本臨床細胞学会教育研修指導医
・日本臨床細胞学会細胞診断専門医
・厚生労働省死体解剖資格認定

がんゲノム医療の第一歩は、がん組織の正確な診断です。病理診断では、採取されたがん組織を顕微鏡で観察し、がんの種類や進行度を評価します。この組織診断に基づいて適切な遺伝子解析が行われます。分子病理診断では、がん細胞の遺伝子変異や分子標的を特定し、それに基づいて治療法を提案します。これにより、治療の効果を最大化し、副作用を最小化することが可能となります。また、遺伝子変異の種類によって、遺伝カウンセリングが必要となります。病理診断科では、遺伝子解析の結果を解釈し、わかりやすく説明するためのサポートも担います。

遺伝・ゲノム診療科の 今後の展望

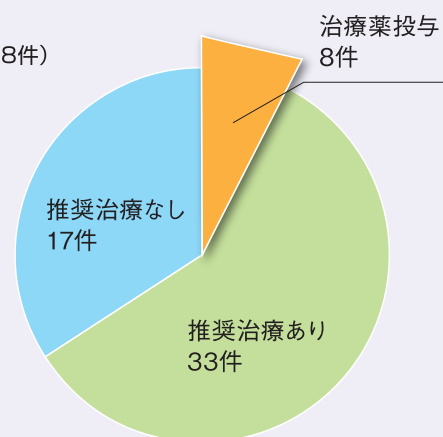
患者さんがスムーズに検査を受けられる体制を整えました。その結果、大学病院を除く道内の医療機関としては特に多くの検査を実施しており、治療につながるケースも増えています。

また、遺伝・ゲノム医療は、がんの予防や早期発見にも役立ちます。遺伝情報をもとに、将来の健康リスクを知ることで、早めの検査や対策が可能になります。当院では、今後サーベイルランス事業を立ち上げ、継続的な健康管理にも力を入れていくことを計画しています。

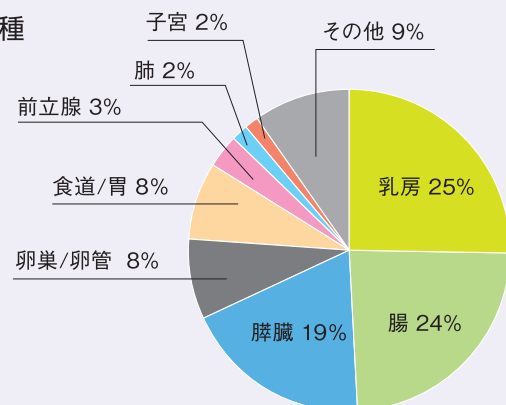
がんゲノム医療を適切に実践していくためには、医療チーム全体が常に学び続け、知識を更新し続けることが不可欠です。当院では、中核拠点病院である北海道大学病院と密接に

治療実績 2023.11～2025.2

■出検数 50件
(うち治療薬投与8件)



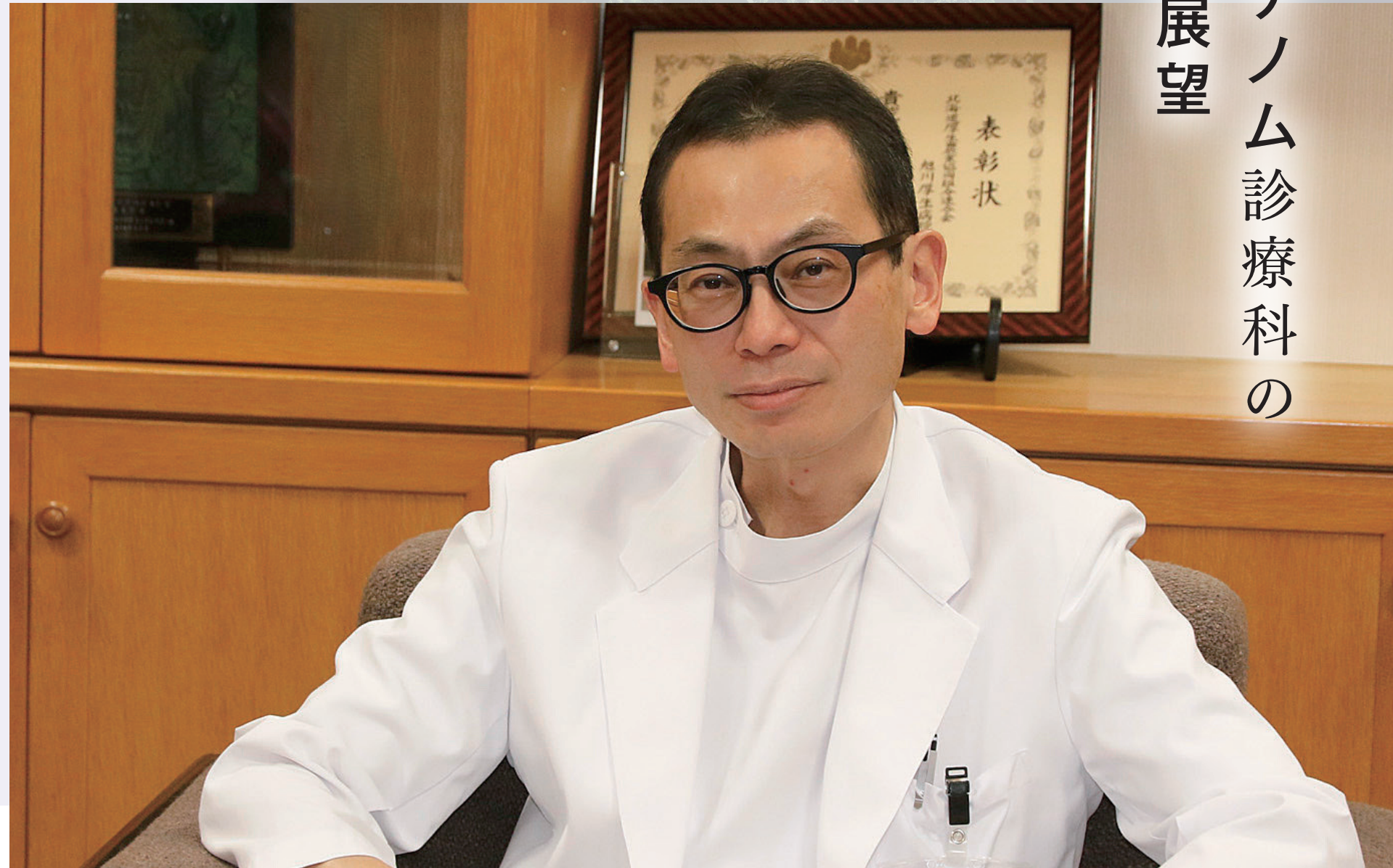
■がん種



連携し、病院全体のがんゲノム医療に対するリテラシーを向上させるための取り組みを継続していきます。最新の知見を取り入れながら、より高度で

質の高い医療を提供できるよう、今後も研鑽を重ねてまいります。「患者さんに寄り添い、最適な医療を届ける」それが私たちの目指す

医療です。ご自身やご家族のことで気になることがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。



略歴

院長 光部 兼六郎

- ・1992 北海道大学医学部卒業
- ・1992 網走厚生病院
- ・1994 苫小牧市立病院
- ・1995 美唄労災病院
- ・1997 北海道大学 婦人科
スウェーデン ヨーテボリ大学 産婦人科留学
- ・2000 北海道大学 不妊症・内分泌・内視鏡グループ
- ・2000 札幌厚生病院
- ・2001 北海道大学 不妊症・内分泌・内視鏡グループ
スウェーデンにて学位取得(医学博士)
- ・2003 天使病院
- ・2004 王子総合病院

- ・2010 旭川厚生病院 産婦人科主任部長
- ・2019 旭川厚生病院 副院長
周産期母子医療センター長・産婦人科主任部長
- ・2024 旭川厚生病院 院長

資格等

- ・日本産科婦人科学会指導医
- ・日本産科婦人科学会専門医
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・母体保護法指定医
- ・日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
- ・ダ・ヴィンチCertificate of Console Surgeon取得

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、がん患者さん一人ひとりに最適な医療を提供することを使命としています。近年、がんの診断や治療に遺伝情報(ゲノム)が活用されるようになり、病気の特徴を詳しく調べることで、より適した治療を選ぶことが可能になってきました。こうした医療をさらに充実させるため、国から2023年8月に「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、新たな体制を整えました。

その一つががん遺伝子パネル検査の実施です。この検査はすべてのがん患者さんに適用されるわけではありませんが、必要な方にとっては診断や治療の選択肢を広げる手になります。当院では、多職種チームが連携し、

地域の連携医療機関さまへ メッセージ

平素より当院へのご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当院の遺伝ゲノム診療科では、診断から集学的治療、がん遺伝子パネル検査までをワンストップで提供できる体制を整えております。

切除不能または進行がんで薬物療法中の患者さんには、がん遺伝子パネル検査をご提案できる可能性があります。該当する患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご相談・ご紹介ください。

患者さんが安心して受診できるよう、医療スタッフ一同、丁寧に対応いたします。また、ご相談・ご紹介やご不明な点がございましたら、下記窓口までお気軽にお問い合わせください。

●お電話ではじめに
「遺伝子パネル検査・遺伝に関する相談」
であることをお伝えください。

JA 北海道厚生連 旭川厚生病院
がん相談・ゲノム支援科
がんゲノム医療コーディネーターまで
代表電話：0166-33-7171
(受付9:00~16:00)

Genetic Genomics

がん遺伝子パネル検査に 関するご相談



遺伝・ゲノム診療科では、「がん遺伝子パネル検査」を行います。
これは、がん細胞の遺伝子を一度に100種類以上も調べる最新技術を駆使した検査です。

がん遺伝子パネル検査(CGP)の流れ

1 主治医より遺伝・ゲノム診療科外来への紹介

2 遺伝・ゲノム診療科外来受診

①CGP担当医が検査説明及び同意取得



②検査科よりがん組織または血液を検査受託会社へ提出



③検査会社にてゲノム解析
組織検体:4~6週間
血液検体:2~3週間



④ゲノム解析結果を専門家会議(エキスパートパネル)で協議。推奨治療検討



⑤CGP担当医より患者さんへ検査結果を説明



3 主治医が今後の治療方針について患者さんと相談

令和5年12月 がん相談・ゲノム支援科作成

1 検査を受けられる病院は？

がん遺伝子パネル検査は、厚生労働省により指定を受けた病院(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療連携病院など北海道内16施設、道北圏2施設)でのみ実施可能です。

2 検査の対象となる方は？

まだすべてのがん患者さんが保険診療で検査を受けられるわけではありません。例えば、標準的な治療が終了(終了が見込まれる患者も含む)した方、または原因不明がんや希少がんの方、医師が検査やその後の治療が適切と判断した方、などが対象となります。

3 検査の流れは？

検査を受けるには、まず医師から検査の説明を受け、同意をします。検査結果が出るまでには1~2か月ほどかかります。

4 費用はいくらがかかりますか？

検査費用は約56万円ですが、健康保険が適用され、自己負担額は3割負担の方で約17万円、1割負担の方で約6万円になります。高額療養費制度の対象です。

受診者の皆さまへ

当院は、がんゲノム医療連携病院として、専門的な知識と経験を持つ医師・スタッフが診療から検査、そしてその後の治療まで、全力でサポートします。ご不安なこと、ご不明な点がございましたら、どんなことでもお気軽にご相談ください。